

日本鉄鋼協会記事

第 6 回 理 事 会

開催日: 2月22日() 出席者: 小林会長, ほか 44 名

1. 昭和 51 年事業報告, 収支決算ならびに財産目録の件, 昭和 52 年度事業計画, 収支予算の件
事務局より概要説明が行なわれ, 承認された。
2. 次期理事, 監事ならびに評議員候補者推薦の件
理事 15 名, 監事 1 名, 評議員 126 名の各候補者を推薦することを決定した。
3. 昭和 52 年度渡辺義介賞, 西山賞, 服部賞, 香村賞, 俵論文賞, 渡辺三郎賞, 渡辺義介記念賞および西山記念賞受領者決定の件
58 名の受賞者が決定し, 4月5日に表彰式を行なう。
4. 日本パーカライジング, 里見雄二相談役から表面処理関係者, 研究業績者顕彰資金寄贈申出の件
年間約 500 万円の資金を本会に寄贈される旨の申出があった旨報告。

研究委員会

第 5 回委員会 開催日: 1月28日, 出席者: 荒木委員長, 伊木共研幹事長ほか 19 名。

1. 材料研究委員会活動報告
天明委員長より現在までの活動状況が報告され, 質疑応答を行った。
2. 鉄鋼協会重要基礎研究
52 年度より発足する「原料炭の基礎物性」「スラグの有効利用に関する基礎研究」の二部会の準備状況が各準備会より報告された。研究会の規程案についての検討を行った。

第 16 回鉄鋼工学セミナー検討委員会 開催日: 1月24日, 出席者: 加藤主査, ほか 7 名。

1. 第 3 回鉄鋼工学セミナーの開催について次のとおり決定した。
 - ・期日 昭和 52 年 8 月 22 日～26 日
 - ・場所 蔵王ハイッ (宮城県刈田郡蔵王町遠刈田字上の原地区)
 - ・コース 製鉄コース, 製鋼コース, 材料コース
2. 上記のコース別の講座内容, 講師について検討した。

編集委員会

第 12 回和文会誌分科会 開催日: 2月4日, 出席者: 長島主査, ほか 18 名。

1. 24 件の論文審査報告がなされ, 修正依頼 6 件, 掲載決定 15 件であった。
2. 「鉄と鋼」第 63 年第 7 号 (6 月号) に, 論文 12 件, 技術報告 2 件, 特別講演 1 件, 部会報告 1 件, 掲載決定した。

第 12 回欧文会誌分科会 開催日: 2月8日, 出席

者: 橋口主査, ほか 8 名。

1. 9 件の論文につき審査報告がなされ, 掲載可 3 件, 照会后掲載可 4 件, 修正依頼 2 件であった。

2. 「鉄と鋼」63 年 2 月より 1 件の研究論文, 63 年 6 号アブストラクトより 2 件の研究論文, 及び他の国内誌より 1 件の研究論文につき投稿を勧誘することとなった。

第 4 回出版分科会 開催日: 2月15日, 出席者: 佐藤主査, ほか 6 名。

1. 鉄鋼便覧の各編の編集委員会の構成ならびに進行状況について報告。
2. 原料から最終製品に至る鉄鋼製造工程を一貫した立場から把握した管理技術編を新たにもうけた方がよいとの意見があり, その粗案を検討した。

共同研究会

鉄鋼分析部会

第 48 回化学分析分科会 開催日: 12月8日。

鉄鋼化学分析法及び JIS 原案について審議した。今回の内容は以下のとおりである。

Mn 及び Cr の JIS 解説の審議, Mo, W, V 及び Ti の共同実験結果の審議。

現在までの進捗状況は, Mn (JISG1213), Cr (JISG1217), Cu (JISG1219) については印刷準備に入り, P (JISG1214), W (JISG1220), Al (JISG1224) は修正中である。その他の元素については検討中である。

標準化委員会

ISO 鉄鋼部会

第 34 回 SC12 分科会 開催日: 1月12日, 出席者: 三佐尾主査, ほか 8 名。

1. TC17 ロンドン総会報告
2. 提出原案の検討
N255 (冷延原板シートプリキ) N256 (冷延原板電気亜鉛めつき鋼板) N257 (熱延原板電気亜鉛めつき鋼板) N258 (Al めつき鋼板) N259 (珪珪用原板) N260 (加工用高張力鋼板) について JIS との相違点, 問題点などについて検討を行った。

第 15 回 TC5 分科会 開催日: 1月21日, 出席者: 金井主査, ほか 9 名。

1. ISO/DIS 審議
DIS5252 (鋼管の許容差システム) は具体的活用性に乏しいため反対する。
2. 提出原案の審議
278F (ISO 65 見直しのためのイタリア意見, 280FC シリンダー用鋼管) について検討し日本コメント案をまとめた。

第54回普通鋼分科会 開催日：1月27日，出席者：山南主査，ほか15名。

1. G3115 圧力容器用鋼の高温強度保証について

原子力技術基準関係告示501号の改正に伴いSu値の妥当性が問題となり電気協会の依頼を受けて現在原子力Su値小委員会で検討を行っている。又圧力容器の特定規格JIS原案の検討段階で，許容応力をB8243はSu値に対して1/4としているが，特に高温強度を保証した材料規格に対しては1/2.4を用いることが考えられており，このため高温強度保証のJIS鋼材の制定が叫ばれている。したがって今後これらにどう対処するかを論議した。当面降伏点25キロ以上は溶接協会で作成される見通しなのでSPV相当(18:22キロ級)を対象に今後検討することにした。

.....

第53回特殊鋼分科会 開催日：1月28日，出席者：品川主査，ほか16名。

1. G4052H 鋼

JIS 自工会協定規格との化学成分範囲の相違点の調整，焼入性指定方法に関するG4052とG0561との調整及びSNCM23の15mmにおける硬の数値の調整。

2. G4051の機械的性質データ

現行規格解説中参考として掲載のデータを見直すことになり，各社所有データを持寄ることにした。

3. JIS 機械構造用鋼記号体系 PR

特殊鋼誌12月号掲載の記号体系案に対する関連業界への合意を求めるためのアンケート調査先及びその他のPR方法について検討した。

4. その他

TC17 総会の会議内容のうちSC4に関する事項について報告された。

.....

第51回鋼管分科会 開催日：1月13日，出席者：丸岡主査，ほか13名。

1. JIS 配管用・熱伝達用鋼管改正原案の作成

(a) 懸案事項

STBのI種の削除，Uベンド管の曲げ半径，肉厚減小率，ステンレス溶接鋼管の水圧試験圧力。

(b) 見直し案

STB，SUS-TP及びTB，SGP，STPGについて逐条審議を行った。

第52回鋼管分科会 開催日：2月8日。

1. 鋼管JIS原案の作成

STBモデル案の審議，STBA，STBL，SUS-TB及びTP，STS，STPT，STPA，STPLの見直し検討。

.....

第25回鋼管判定試験方法分科会 開催日：1月25日。出席者：品川主査，ほか19名。

1. G0553

ステンレス鋼，耐熱鋼の標準腐食時間の決定

2. G0561

焼入装置，試験片の作成方法，硬さ測定位置，焼入性表示法の修正

3. G0559

硬さ測定方法の修正

4. G0566

改正点及び解説案の説明及び検討

.....

第3回鋼材表面欠陥分科会 開催日：1月14日。出席者：三佐尾主査，ほか16名。

1. 各分科会修正案の検討

鋼片(分塊分科会)亜鉛鉄板・着色亜鉛鉄板(亜鉛鉄板会)溶接管(溶接管分科会)継目無管(継目無管分科会)各修正案の検討を行った。特に溶接管と継目無管とは思想を一致させる必要から標準グループ委員を加えたワーキンググループを設けてまとめることにした。

2. 編集方法

番号及び用語，形態及び特長，備考で構成し，工程順に配列することにし，出版目標を9月とした。

また規格案は形状別に分冊とすることにした。

クリープ委員会

第8回高温熱疲労試験分科会 開催日：1月26日。出席者：雑賀主査，ほか16名

2¹/₄Cr-1Mo鋼(A387)の高温低サイクル疲労試験のReference Test結果について，川崎重工，日新製鋼，神戸製鋼，石川島播磨，京都大学，三菱金属および大同特殊鋼の順で7機関から報告が行われた。

その審議内容は次のとおりである。

(1) 報告は幹事から指示された次の事項について各機関から説明があった。

(イ) 全ひずみ範囲と破断繰返し数

(ロ) 塑性ひずみ範囲と繰返し数

(ハ) 応力範囲と繰返し数

(ニ) 応力とひずみのヒステリシスループ

(2) これら報告の結果について幹事よりとりまとめが行われ，温度分布，歪範囲の取付の問題および歪計の検定などが検討された。

(3) さらに，報告様式および試験方法につき比較検討が行われてこの結果を幹事の手元でまとめることとなった。

上記のほか，クリープ関係の試験結果については次回分科会で検討することとなった。

材料研究委員会

第23回委員会 開催日：1月21日。出席者：天明委員長，ほか10名。

「焼入性の評価方法」に関する各社の実験進捗状況について報告があり，実験上の問題点，今後の進め方などについて検討した後，鋼管・技研の見学を行なった。

検討項目は下記の通りである。

1. Soaking法について

2. Jominy試験中の脱炭について

3. 試験片の粒度について

4. 焼入性の低い材料について

5. その他

鉄鋼科学技術史委員会

第 11 回委員会 開催日: 1 月 17 日. 出席者: 館委員長, ほか 15 名.

教育 WG, 製鋼 WG, 材料 WG の活動報告が各主査よりなされた. 各 WG ともまとめの段階に入っており, 52 年度にまとめを完了する予定である. 製鉄 WG 準備会についても報告がなされ, 来年度より WG として発足することとなった.

特別講演として「戦後日本鉄鋼業における技術的發展の諸条件」の題で新潟大学大橋教授の講演が行われた.

(会告 N75 ページよりつづく)

Second International Conference on Solid Lubrication 論文募集

(第 2 回固体潤滑に関する国際会議)

1. 期 日 1978 年 8 月 14 日~18 日
2. 場 所 Denver, Colorado, U.S.A.
3. 主 催 Americal Society of Lubrication Engineers
4. 内 容 基礎, 結合膜 (Bonded Films), 複合材料, オイル・グリース中の固形物, 試験方法, 潤滑油の成分, 製造・品質管理, 特殊な応用例
の各セッションを予定している.
5. 論文募集について
アブストラクト提出締切 1977 年 9 月 1 日
原稿提出締切 1977 年 12 月 1 日
6. 連絡先 Mr. Marshall B. Peterson
Wear Sciences,
32 Sutherland Drive,
Scotia, NY 12302, U.S.A.

16th Annual Conference of Metallurgists 1977

1. 時 期 1977 年 8 月 21 日(日)~25 日(木)
2. 場 所 Vancouver
3. Abstracts 締切 1977 年 3 月 1 日(火)
200~300 Word
4. 範 囲 All areas of Metallurgy
5. 連絡先 下記へ直接お申し込み下さい
Mr. J. C. Farge, Technical Program
Chairman, Noranda Research Center,
240 Hymus Blvd., Pointe Claire,
Quebec, H9R 1G5, Canada
6. 主 催 Metallurgical Society of the Canadian
Inst. Mining & Metallurgy.

XX International Refractory Colloquium 1977

1. 時 期 1977 年 10 月 13 日(木), 14 日(金)
2. 場 所 Aachen
3. テーマ Refractory materials for steel treating and casting ladles including ladle closing systems
4. 論文締切 1977 年 8 月 16 日(火)
5. 連絡先 日本鉄鋼協会国際課
100 東京都千代田区大手町 1-9-4
経団連会館 3 階 03-279-6021

第 7 回国際金属腐食会議

標記国際会議は, 1978 年 10 月 4~11 日, ブラジル, リオ・デ・ジャネイロ市で開催される. 主題は, 1) 腐食の電気化学, 2) 不動態, 3) 局部腐食, 4) 腐食割れ, 5) 腐食疲労, 6) 高温酸化, 7) 大気腐食, 8) 海水腐食, 9) 真水腐食, 10) 地下腐食, 11) 生物腐食, 12) コンクリート中腐食, 13) 発電所腐食, 14) プロセス工業での腐食, 15) 特殊環境下腐食, 16) 非金属材料腐食, 17) コーティング, 18) 電気防食, 19) 腐食抑制剤, 20) 腐食試験, 21) 腐食教育, である.

報文提出者は, 300 字の要旨 (英文) を 1977 年 10 月 31 日まで, 1000 字の要旨 (英文) を 1978 年 3 月 31 日まで下記へ提出する.

Dr. Aldo Cordeiro Dutra

ASSOCIAÇÃO BRASILEIRA DE CORROSAO-ABRACO

Av. Venezuela, 82-sala 709, 20.000-RiO de Janeiro-RJ, Brasil.

国内の連絡先は,

101 東京都千代田区神田神保町 2-23 飯田ビル
腐食防食協会渉外部 岡田秀弥